

白石市民団が札幌市白石区を訪問 記念式典と白石区ふるさとまつりに参加しました



1_さらなる友好と交流を誓って鏡開きをする関係者 2_大泉恒彦さん（左）の講演の最後に息子である大泉潤函館市長（右）が登壇、会場は大いに盛り上がりました 3_白石区伝統の「白石音頭」が披露されました 4_ふるさとまつりには白石市姉妹友好都市交流協会から市民団30人が参加し、まつりを堪能しました 5_まつりを盛り上げた片倉鉄砲隊による火縄銃演武 6_白石温麺や日本酒などを販売した本市物産ブースも大盛況でした！

記念式典と祝賀会の夕べ 白石区ふるさと会設立50年 白石市友好都市50年 登別市交流都市10年



▲式典で交換した記念品を披露する（左から）佐藤善一姉妹友好都市交流協会会長、武藤征一白石区ふるさと会会長、長谷川豊札幌市白石区長、山田裕一白石市長

白石市・札幌市白石区友好都市50年 さらなる友好・親善を誓い合う！

6月13日、本市と札幌市白石区との友好交流50年を祝う式典と祝賀会が、札幌市白石区のアサヒビール園はまなす館で開催されました。この日の式典には、白石区ふるさと会設立50年に加え、白石区と北海道登別市との交流10年を併せてお祝いするため、両市から約200人が出席。本市からは山田市長のほか、佐藤善一白石市姉妹友好都市交流協会会長を団長に、会員から募った市民訪問団30人が出席し、今後のさらなる友好親善交流を誓い合いました。さらに、本市にルーツがあると言われる俳優の大泉洋さんの兄、大泉潤函館市長にも式典に花を添えていただきました。

札幌市白石区と本市が友好都市としての関係を確立したのは、明治4年「片倉家」家老の佐藤孝郷を中心とする家臣団が入植し、現在の白石区の礎を築いたことにより、昭和43年、本市と白石区の両白石中学校が姉妹協定を締結。昭和45年、札幌市旧白石村開基100周年記念式典に白石市長が招待され、「白石区ふるさと会」が設立されたことにより、これまでさまざまな交流が盛んに行われてきました。

式典で山田市長は「本市と白石区のさらなる発展と繁栄、両市・区民がこれまで築いた交流の輪がさらに広がっていくことを祈念します」と祝辞を述べました。式典の最後には、白石区で煉瓦を製造した鈴木煉瓦製造場・長濱久松工場長のひ孫である見延典子さん、入植者のひ孫であり、大泉潤函館市長の父である大泉恒彦さんの記念講演も行われ、参加者は二人の話に耳を傾けていました。

翌14日には「第50回白石区ふるさとまつり」が、札幌コンベンションセンターで開催され、山田市長と本市市民団もまつりを堪能しました。まつりでは、白石温麺など本市の物産を販売するブースが出店したほか、本市と白石区の隊員による片倉鉄砲隊火縄銃演武も披露され、まつりを盛り上げました。